

臨床検体使用に関するお知らせ

『研究課題名 リラクゼーションを導入した心身症症例におけるベンゾジアゼピンの使用量変化と関連する因子の検討』

【研究の背景および目的】

東邦大学医療センター大森病院心療内科では、心身症の患者さんを対象にリラクゼーション外来による治療を行っています。リラクゼーションには、自律訓練法、漸進的筋弛緩法、バイオフィードバック療法などがあり、近年では緊張型頭痛や不眠症など、様々な疾患でその有効性が報告されています。

また、従来から不眠症や不安症の治療に用いられている薬に、ベンゾジアゼピン系薬剤があります。優れた薬効を持ち、その有用性は世界的に広く知られていますが、一方で長期使用による依存性などが問題となる場合があります。このような問題から、海外ではベンゾジアゼピン系薬剤の減量のため、リラクゼーションが有用であったという報告もあります。しかし、リラクゼーションでどのような方がベンゾジアゼピン系薬剤を減量できるのかは未解明です。

そこで、東邦大学医療センター大森病院心療内科では、リラクゼーション外来を受診されたベンゾジアゼピン系薬剤を使用している患者さんを対象に、その後どのように薬剤の使用量が推移するのか、またどのような要因が影響するのかを明らかにすることを目的として本研究を計画しました。

この研究で得られる成果は、リラクゼーションが心身症の治療効果だけでなく、ベンゾジアゼピン系薬剤の使用量に及ぼす効果を知ること、適切に治療マネジメントをすることにつながります。

【研究対象および方法】

この研究は、東邦大学医療センター大森病院倫理委員会の承認を得て実施するものです。

2010年1月～2019年1月までに東邦大学医療センター大森病院心療内科において、リラクゼーション外来を受診された患者さんのうち、ベンゾジアゼピン系薬剤を使用していた症例(約50例)を対象とします。

診療録(カルテ)から抽出した臨床的な特徴と経過および治療成績を解析し、疾患の特徴と治療効果を調査します。

今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報が外部に漏れることは一切ありません。

本研究に関してご質問のある方、診療情報や検査結果を研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡下さい。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大森病院

心療内科

職位・氏名 准教授・竹内武昭

電話 03-3762-4151 内線 6893